

JA香川県高松・坂出地区果樹青壮年部における
遊休農地を活用した新規就農者の就農促進・
担い手育成の取組

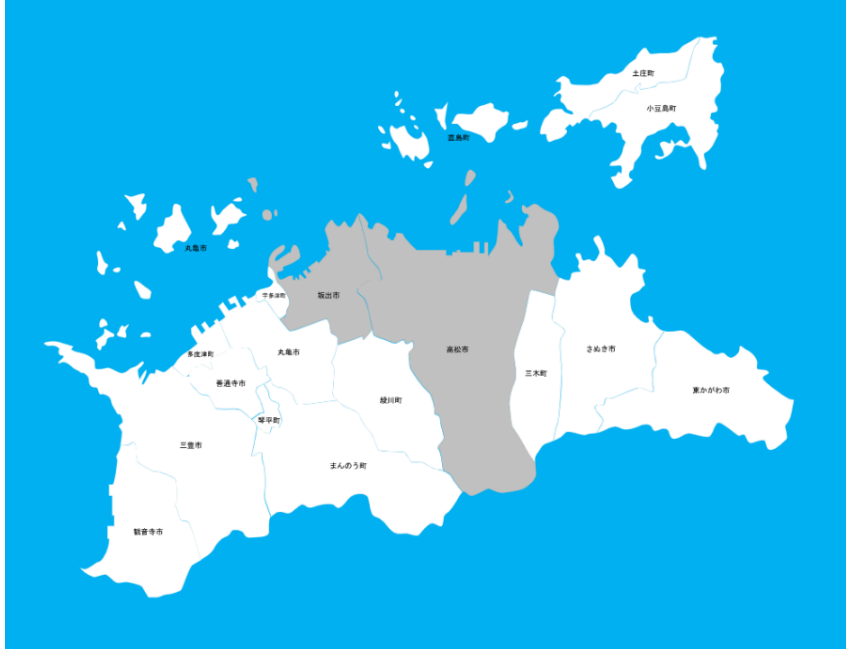
JA香川県高松・坂出地区果樹青壮年部

R7.9.5

目次

- 1 高松・坂出地区における果樹栽培の特徴
- 2 産地の課題と組織設立の背景
- 3 活動の拠点（モデル園）の整備
- 4 モデル園等を活用した活動
- 5 その他 研修・勉強会の開催
- 6 県域での横展開
- 7 様々な相談の場としても…
- 8 園地の継承、会員数の広がり
- 9 関係制度・事業の利用促進、関係機関との連携
- 10 今後の課題と活動の方向性

1 高松・坂出地区における果樹栽培の特徴



香川県の地図

○ 高松地区

- ・ 瀬戸内海に面した北西部の傾斜地を利用してカンキツ類を中心に栽培。
- ・ 温州ミカンの長期貯蔵技術が行われてきた歴史があり、温室みかん発祥の地としても知られる。

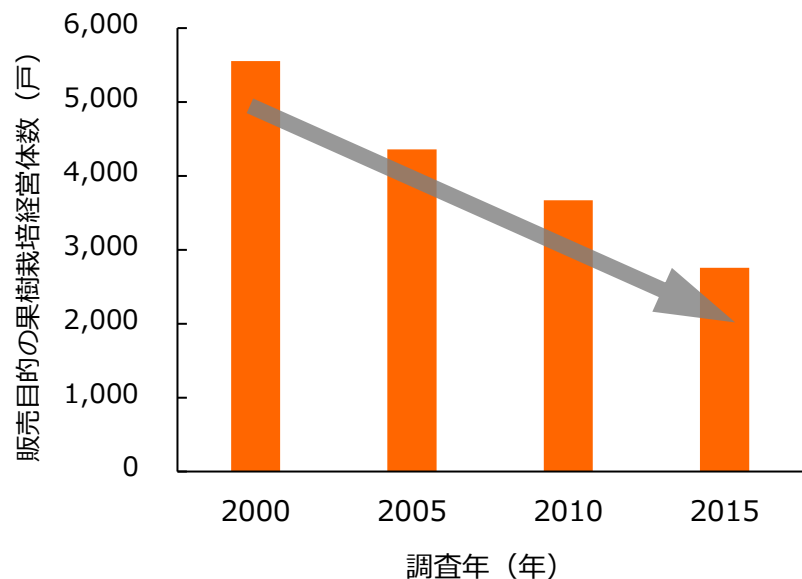
○ 坂出地区

- ・ 高松市にまたがる丘陵の五色台で、カンキツ類が盛んに栽培されてきた。
- ・ この地域で発見された果皮の紅が濃い温州ミカン「小原紅早生」の導入・普及が進められてきた。



長期貯蔵（左）、温州ミカン「小原紅早生」（右）

2 産地の課題と組織設立の背景



香川県での果樹栽培経営体数の推移

出典：農林水産省「農林業センサス2000、2005、2010、2015」

- 生産者の高齢化や価格の低迷により、他地区同様に生産者数は減少。
- 遊休農地が拡大するなど産地基盤の脆弱化が進行。

- 高松市の若手生産者が、産地の維持・発展に向けて、栽培技術の研鑽や担い手の育成を図るとともに、同世代の交流を促進するため、若手生産者の組織化をJ Aや産地の生産者に働きかけ。

- 隣接する坂出市の若手生産者と一緒に、平成26年5月に青壮年部を設立。設立当時の会員は17名（平均年齢は36歳）で、うち約6割の11名が就農5年未満。

3 活動の拠点（モデル園）の整備



整地前



整地後

- 活動の拠点とするため、平成28年度に果樹経営支援対策事業を活用して、遊休農地となる果樹園12aを温州ミカン「小原紅早生」に改植し、青壮年部が自主運営する最初のモデル園として整備。



- 令和5年度にも、遊休農地となる果樹園10aを「小原紅早生」に改植し、2つ目のモデル園を整備。



- 令和7年度からは、経営を縮小したい生産者から、10aの温州ミカン「興津早生」を貸借し、園地を管理。

4 モデル園等を活用した活動



苗木の定植作業



苗木の定植後の様子

- 就農希望者や経験の浅い若手会員の実践的な研修を行う場としてモデル園を活用。
- 基本管理技術の習得に向けた研修として、苗木の定植、接木、摘果、収穫・調整、剪定と防除について、先輩会員、ベテラン生産者、JAと県普及センターと一緒に作業を行いながら教える形で実施。
- 就農希望者に基本管理を任せる場合もあり、栽培管理上の自己解決能力を養う機会となっている。

4 モデル園等を活用した活動



接木作業



収穫作業



摘果作業



剪定作業

5 その他 研修・勉強会の開催



座学での勉強会

- 県普及センター・研究機関や農薬メーカーの技術者を講師とした勉強会の開催や県外の産地・研究機関等への視察研修、モデル園におけるドローン防除の実演などに積極的に関わり、技術向上に努めている。



県外視察



ドローン防除の実演

6 県域での横展開



県域の青壮年部の設立総会



県域での園地視察の交流

- 高松・坂出地区の青壮年部の設立を契機として、県西部の観音寺市・三豊市で、同様に西部果樹青壮年部が立ち上げられ、平成28年8月には両組織を構成員とする県域の組織も設立された。
- 県東西の若手生産者による園地視察といった新たな相互交流も生まれ、県域での横の繋がりができている。

7 様々な相談の場としても…



- 新規参入者は、遊休農地や水利権、農業機械の確保、栽培品目・品種の選定、栽培技術などの情報が得にくい。
- 上記のことについて、先輩会員が中心となり会員間で気軽に相談できる場ともなっており、地域との橋渡し役の側面もある。



8 園地の継承、会員数の広がり



青壮年部



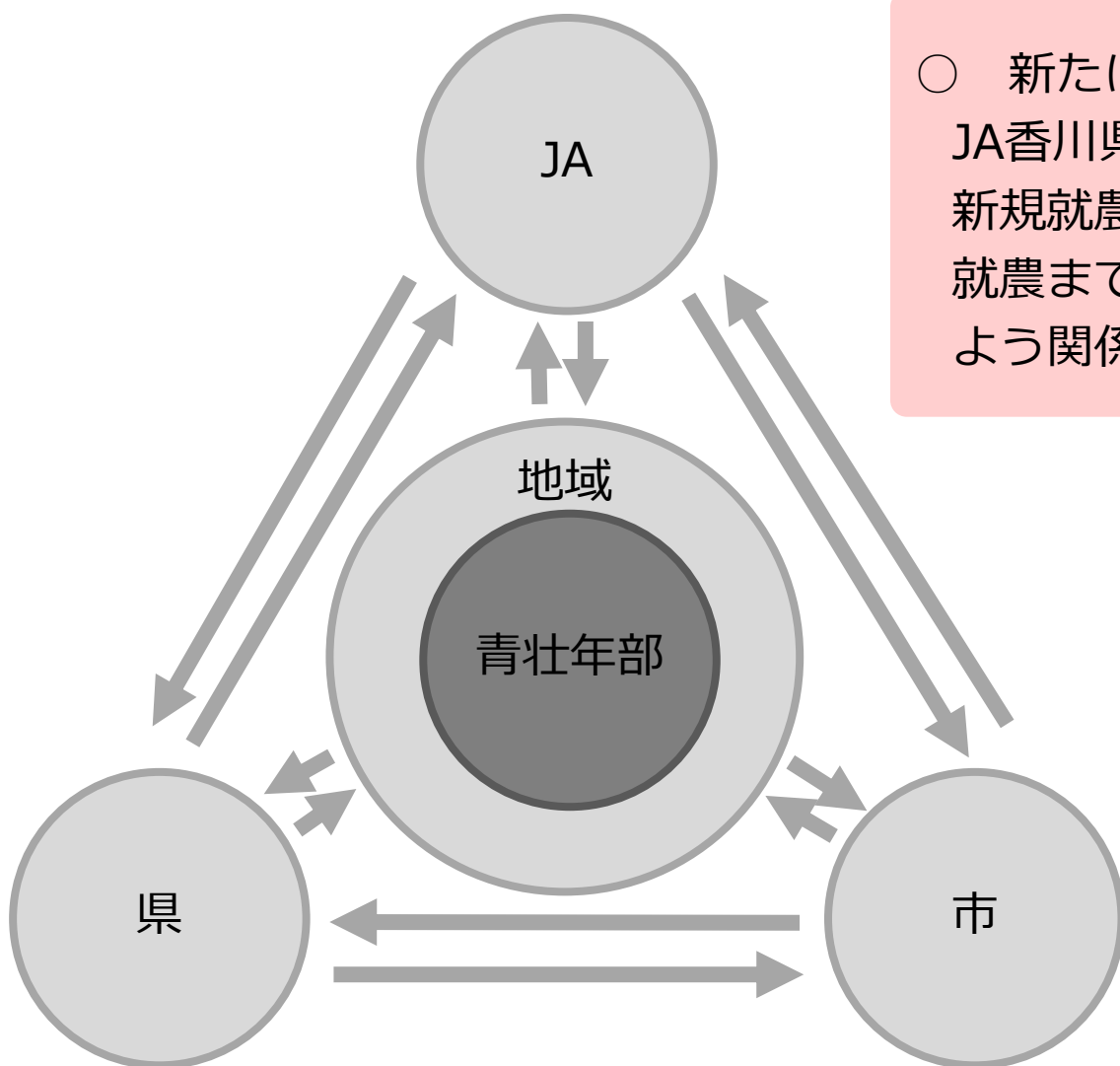
モデル園



会員

- 平成28年に整備した「小原紅早生」のモデル園12aは、令和5年11月に若手会員へ継承した。
- 今後の新たなモデル園は、苗木の定植から結果樹になるまでを経験できる研修ほ場としての機能は継続されるとともに、結果樹園に育成された際は、若手会員へ継承する予定。
- 令和7年8月現在、青壮年部の会員数は、13名増加して30名に拡大し、青壮年部内に非農家出身者や県外からの移住者など多様な人材がいる。

9 関係制度・事業の利用促進、関係機関との連携



関係機関との連携体制

- 新たに会員となる就農希望者には、JA香川県の農業インターン制度や国の新規就農者育成総合対策の利用を促し、就農まで、安心して研修に専念できるよう関係機関と連携。



10 今後の課題と活動の方向性

課題

- モデル園での、普段の除草・防除管理を継続的に誰が行っていくか…。
- 遊休農地となる園地の情報が集まる受け皿となり、さらに会員の誰が新たに園地を開拓していきたいか体系化し、新たな遊休農地の情報に備えていく必要がある。
- モデル園の管理費や県外視察などの活動資金が必要。

活動の方向性

地域の遊休農地について、青壮年部という受け皿を通して、若手生産者への園地の供給源となり、若手生産者の様々な情報収集・交換の場となるように活動を継続していく。